

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）
「先進的量子技術基盤の社会課題への応用促進」
第3回 推進委員会 議事要旨

1. 日時 令和5年10月24日（火） 13:00～15:00

2. 開催方法 中央合同庁舎8号館816会議室 & オンライン（Teams）

3. 出席者

【委員長（プログラムディレクター）】

寒川 哲臣 日本電信電話株式会社 先端技術総合研究所
常務理事 基礎・先端研究プリンシパル

【サブプログラムディレクター】

<全体総括>

平山 祥郎 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構
SIP推進センター センター長

<量子コンピューティング担当>

堀部 雅弘 国立研究開発法人産業技術総合研究所
【Web】 量子・AI融合技術ビジネス開発グローバル研究センター 副センター長

<量子セキュリティ・ネットワーク担当>

花岡 悟一郎 国立研究開発法人産業技術総合研究所
サイバーフィジカルセキュリティ研究センター 首席研究員

<量子センシング担当>

大島 武 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構
量子技術基盤研究部門 高崎量子応用研究所
量子機能創製研究センター センター長

<イノベーション創出基盤担当、産業連携担当>

岡田 俊輔 一般社団法人量子技術による新産業創出協議会 実行委員長
【Web】

【関係省庁】

高橋 文武 総務省 国際戦略局 技術政策課 研究推進室長
澤田 和宏 文部科学省 研究振興局 基礎・基盤研究課 量子研究推進室長
田中 真人 経済産業省 産業技術環境局 研究開発課 研究開発調整官

【内閣府課題担当】

増田 幸一郎 内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局
量子・マテリアル担当 政策企画調査官

【オブザーバー】

須藤 亮 内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局
政策参与 プログラム統括

4. 議題

- (1) 社会実装に向けた戦略及び研究開発計画改訂案について
- (2) その他

5. 配布資料

資料 1-1 社会実装に向けた戦略及び研究開発計画の変更について（案）
資料 1-2-1 社会実装に向けた戦略及び研究開発計画（案） I、II
資料 1-2-2 社会実装に向けた戦略及び研究開発計画（案） III以降
資料 2 これまでの経緯と今後の予定

参考資料 1 SIP 第 3 期「先進的量子技術基盤の社会課題への応用促進」推進委員会の設置について

参考資料 2 【令和 5 年 10 月 5 日 GB 資料 4】SIP 第 3 期サブ PD の選定について（更新）

参考資料 2 別 添 【令和 5 年 10 月 5 日 GB 資料 4 別添】SIP 第 3 期サブ PD 推薦書

参考資料 3 利益相反マネジメントについて

6. 議事要旨

- (1) 社会実装に向けた戦略及び研究開発計画改訂案について

寒川 PD より、資料 1-1、1-2-1、1-2-2 に基づき、社会実装に向けた戦略及び研究開発計画の更新部分について説明された。記載内容について議論し、下記の 6 点の修正を行い、資料 1-2-1、資料 1-2-2 を結合したものをガバニングボードに提出することを、PD、サブ PD を除いた構成員（関係省庁、内閣府課題担当）にて決定した。

- 研究開発テーマ「プライバシーなどを保護しつつデータ解析ができる秘密計算などの活用」について、マネジメント会議にて決定された 3 点（金融分野での POC 実施、データ共有の有用性検証の追加、インターオペラビリティ機能／ルールガイドラインの制定／ベストプラクティスの共有や発信）についての記載を追記する。
- 「Ⅲ.3.（8）【量子センシング】量子センシング等の利用・試験・評価環境の構築」の「①研究開発目標」の 2 の達成時期が 2027 年度までとなっているのに対して、「Ⅱ.4.(2)社会実装に

に向けた SIP 期間中の達成目標」の「③量子センシング」の 3 番目の目標が 2026 年度までとなっている。誤記のため、Ⅱ .4.(2)の 2026 年度までに合わせる。

- 「Ⅲ.3. (10) 【量子センシング】超高速通信・モビリティ等を支える時空間ビジネス基盤の構築」の「①研究開発目標」の記載されている「達成目標③4」に対応する記載が、「Ⅱ .4.(2)社会実装に向けた SIP 期間中の達成目標」の「③量子センシング」に存在しないという更新漏れがあるので修正する。
- 「Ⅳ.5.SIP 課題間連携」で「マテリアル事業化イノベーション・育成エコシステムの構築」との連携については、合意が得られていないため、記載を削除する。
- 各研究開発テーマの実施内容をそのまま研究チームの実施内容に記載しているものがあるため、見やすさの観点からどちらか一方にマージする。
- 研究開発テーマごとに「研究チーム 1」、「研究チーム 2」などの記載がされており、紛らわしいのでユニークな番号をつけるようにする。

(2) その他

事務局より資料 2 を用いて今後の予定を説明した。

以上